

# 設立認証申請に係る縦覧書類

(令和7年度)

1 申請年月日

令和8年3月5日

2 特定非営利活動法人の名称

特定非営利活動法人 アロカ

3 代表者の氏名

山中 常稔

4 主たる事務所の所在地

伊勢市古市町97番地

5 定款記載の目的

この法人は、障害者が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活または社会生活を営むことができるよう、地域社会における自立と社会参加を支援することを目的とする。

6 縦覧期間

令和8年3月5日 ～ 令和8年3月19日

# 特定非営利活動法人アロカ定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人アロカという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を三重県伊勢市古市町97番地に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、障害者が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活または社会生活を営むことができるよう、地域社会における自立と社会参加を支援することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 障がい者の自立と共生社会（障がいのある人とない人が、相互に人格と個性を尊重し合い、それぞれの違いを認め合いながら共に生きる社会をいう。）の実現を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく生活介護事業（障害福祉サービス）

## 第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が、次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

#### 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第12条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上5人以内
  - (2) 監事 1人以上2人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1

人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

#### (職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

#### (任期等)

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

#### (欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

#### (解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第19条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。

## 第5章 総会

(種別)

第20条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第21条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第22条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の利益をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第23条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって、招

集の請求があったとき。

(3) 第14条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第24条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第25条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第27条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第28条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第26条、前条第2項、次条第1項第2号及び第49条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。
- 3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
  - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
  - (3) 総会の決議があったものとみなされた日
  - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第6章 理事会

(構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第31条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第32条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第14条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第33条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から20日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第34条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立の時の財産目録に記載された資産

(2) 入会金及び会費

(3) 寄附金品

(4) 財産から生じる収益

(5) 事業に伴う収益

(6) その他の収益

(資産の区分)

第 39 条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産のみとする。

(資産の管理)

第 40 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第 41 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第 42 条 この法人の会計は特定非営利活動に係る事業に関する会計のみとする。

(事業計画及び予算)

第 43 条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 44 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第 45 条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第 46 条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 47 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 48 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 49 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する事項に該当する場合は所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第 50 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取り消し

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 51 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会において議決したものに譲渡するものとする。

(合併)

第 52 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 53 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第 28 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

## 第 10 章 雑則

(細則)

第54条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。  
理事長 山中 常稔  
副理事長 藤本 あけみ  
理事 岩山 信助  
監事 前村 将大
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、成立の日から令和10年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第47条の規定にかかわらず、成立の日から令和9年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
  - (1) 正会員入会金 1,000円  
正会員年会費 2,000円
  - (2) 賛助会員入会金 1,000円  
賛助会員年会費 1,000円

## 役員名簿

特定非営利活動法人アロカ

役名	(フリガナ) 氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	山中常稔	個人情報のため隠しています。提出する書類には、住所の記載が必要です。	無
副理事長	藤本あけみ		無
理事	岩山信助		無
監事	前村将大		無

# 設立趣旨書

## 1 趣旨

現在、日本の障害福祉現場においては、高齢化や重度化に伴い、介助の効率化や安全管理が徹底されています。しかし「一人ひとりの願い」や「地域との繋がり」が後回しにされてしまう現状があります。特に障害支援区分重度障害を持つ方々にとって、日中の「居場所」に限定されがちであり、個人の「やりたい」「楽しみたい」という意思を形にする機会は極めて限られています。

私たちは共に歩み、支え合うことの中にこそ真の豊かさがあると考えます。法人の名称である「アロカ」は、サンスクリット語で「光明」を意味します。これは、支援する側・される側という分け隔てなく、誰もが同じ光の中で生かされている喜びを分かち合う場所でありたいという願いを込めたものです。

私たちは、限られた時間を「利用者さんがやりたいこと」の実現や、外出、地域社会との交流に注ぎます。近隣の大学生やボランティア団体と手を取り合い、重い障害があっても地域の中で当たり前のように笑い、繋がり、充実した時間を過ごせる場を創出します。

お互いが繋がりによって生きていることを実感できる社会の実現を目指し、特定の誰かだけでなく、関わるすべての人が共に生きる喜びを感じられる活動を推進するため、特定非営利活動法人を設立いたします。

## 2 申請に至るまでの経過

これまで、福祉現場や地域活動を通じて、重度障害者とその家族が「地域との繋がり」の必要性を改めて考えました。共有既存の枠組みでは対応しきれない「余暇」や「社会参加」の充実、そして「生きる喜び」を共に感じる場として、志を同じくする仲間と共に、新しい形の生活介護事業所の構想を練ってまいりました。

社会的信用を確保し、行政や地域諸団体と対等な立場で連携を深め、永続的にこの活動を支えていくため、法人格の取得を決意いたしました。

2026年 2月 13日

特定非営利活動法人アロカ  
設立代表者 氏名 山中 常稔

# 令和8年度事業計画書

( 法人成立の日 ～ 令和9年3月31日)

特定非営利活動法人アロカ

## 1 事業実施の方針

利用者が自立した日常生活、社会生活を過ごすことができるように環境に応じて適切な支援を行う

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく生活介護事業（障害福祉サービス）	日中において利用者の生活支援、生産活動を行う。	通年	伊勢	20人	伊勢20人

# 令和9年度事業計画書

(令和9年4月1日～令和10年3月31日)

特定非営利活動法人アロカ

## 1 事業実施の方針

利用者が自立した日常生活、社会生活を過ごすことができるように環境に応じて適切な支援を行う

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく生活介護事業（障害福祉サービス）	日中において利用者の生活支援、生産活動を行う。	通年	伊勢	20人	伊勢20人

法人成立の日から

令和8年度 活動予算書  
令和9年 3月 31日まで  
特定非営利活動法人アロカ

(単位：円)

科目	金額 (円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	30,000	
賛助会員受取会費		30,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金		
3. 受取助成金等		
受取民間助成金		
4. 事業収益		
障害福祉サービス事業収益	36,000,000	
事業収益		
事業収益		
事業収益		36,000,000
5. その他収益		
受取利息		
雑収益		
経常収益計		36,030,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
給料手当	14,600,000	
法定福利費	1,300,000	
福利厚生費	100,000	
人件費計	16,000,000	
(2) その他経費		
売上原価	0	
会議費	100,000	
旅費交通費	200,000	
消耗品費	800,000	
賃借料	1,200,000	
研修費	100,000	
通信費	300,000	
印刷費	200,000	
保険料	300,000	
講師謝金	100,000	
雑費	2,000,000	
その他経費計	5,300,000	
事業費計		21,300,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当	1,500,000	
法定福利費		
福利厚生費		
人件費計	1,500,000	
(2) その他経費		
売上原価		
会議費		
旅費交通費	500,000	
消耗品費		
賃借料		
研修費		
通信費		
印刷費		

保険料			
講師謝金			
雑費	500,000		
その他経費計	1,000,000		
管理費計		2,500,000	
経常費用計			23,800,000
当期経常増減額			12,230,000
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			
当期正味財産増減額			12,230,000
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			12,230,000

令和9年度 活動予算書  
 令和9年4月1日から 令和10年 3月 31日まで  
 特定非営利活動法人アロカ

(単位：円)

科目	金額 (円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	30,000	
賛助会員受取会費		30,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金		
3. 受取助成金等		
受取民間助成金		
4. 事業収益		
障害福祉サービス事業収益	36,000,000	
事業収益		
事業収益		
事業収益		36,000,000
5. その他収益		
受取利息		
雑収益		
経常収益計		36,030,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
給料手当	14,600,000	
法定福利費	1,300,000	
福利厚生費	100,000	
人件費計	16,000,000	
(2) その他経費		
売上原価	0	
会議費	100,000	
旅費交通費	200,000	
消耗品費	800,000	
賃借料	1,200,000	
研修費	100,000	
通信費	300,000	
印刷費	200,000	
保険料	300,000	
講師謝金	100,000	
雑費	2,000,000	
その他経費計	5,300,000	
事業費計		21,300,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当	1,500,000	
法定福利費		
福利厚生費		
人件費計	1,500,000	
(2) その他経費		
売上原価		
会議費		
旅費交通費	500,000	
消耗品費		
賃借料		
研修費		
通信費		
印刷費		

保険料			
講師謝金			
雑費	500,000		
その他経費計	1,000,000		
管理費計		2,500,000	
経常費用計			23,800,000
当期経常増減額			12,230,000
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			
当期正味財産増減額			12,230,000
前期繰越正味財産額			12,230,000
次期繰越正味財産額			24,460,000